

第6回子どもの貧困対策検討会議 次第

日時：平成29年3月23日（木）

午前9時30分～午前11時

場所：本庁舎6階 正庁

1 開 会

2 議 題

- (1) 「愛知子ども調査」の集計結果について

- (2) 「ひとり親家庭等実態調査」の集計結果について

- (3) 「関係者聞き取り調査」について

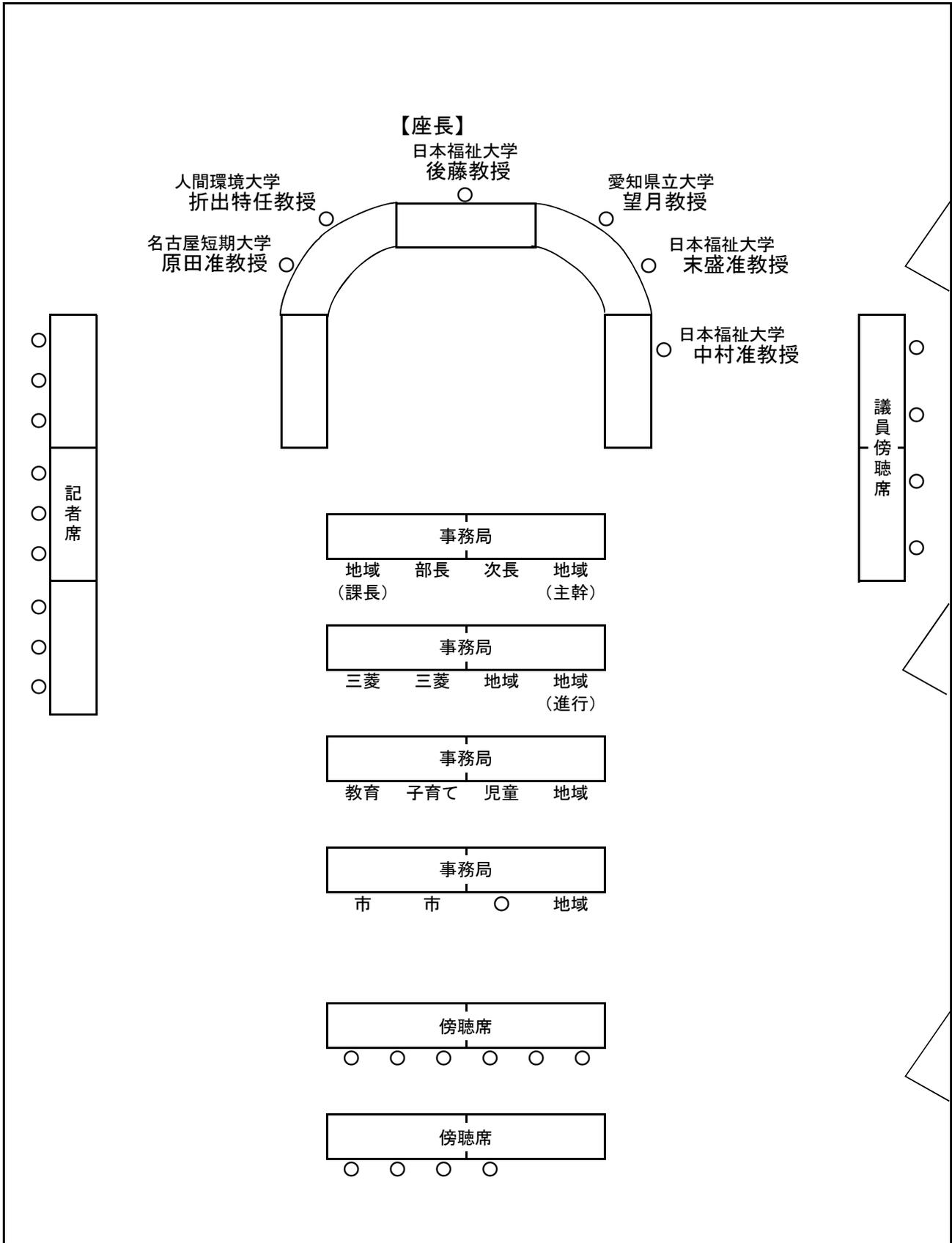
3 閉 会

配付資料一覧

- 第6回子どもの貧困対策検討会議 配席図
- 資料1 愛知子ども調査 概要版
- 資料2 愛知子ども調査 集計結果報告書（案）
- 資料3 ひとり親家庭等実態調査 概要版
- 資料4 ひとり親家庭等実態調査 集計結果報告書（案）
- 資料5 関係者聞き取り調査

第6回 子どもの貧困対策検討会議 配席図

日時:平成29年3月23日(木)
午前9時30分～午前11時
場所:本庁舎 6階 正庁



愛知子ども調査 集計結果(概要版)

平成29年3月21日

■ 調査の概要

◆ 調査の目的

- 県内全域においてアンケート調査を実施し、子どもの生活実態や子育て支援ニーズ、経済的な要因が及ぼす影響等を把握する

◆ 調査方法

- 県内の市町村立小中学校を通じて調査票を配付し、回収は郵送又は学校回収

◆ 調査期間

- 平成28年12月

◆ 回収数

	小学1年生 保護者	小学5年生 保護者	小学5年生 本人	中学2年生 保護者	中学2年生 本人	全合計
配付数	6,965	6,593	6,593	6,742	6,742	33,635
有効回収数	4,977	4,669	4,837	4,575	4,699	23,757
回収率	71.5%	70.8%	73.4%	67.9%	69.7%	70.6%

※小5の親子のペアリングができるのは4,586件、中2の親子のペアリングができるのは4,530件

■ 本調査から算出した子どもの貧困率

◆ 算出方法

保護者調査票：家族の人数
世帯の収入(手取り額)

- 1人当たりの収入(手取り額)を算出
- 国民生活基礎調査の貧困線(平成24年122万円以下)もとに、子どもの貧困率を算出
- 愛知県独自の貧困線を算出し、子どもの貧困率を算出

◆ 算出結果

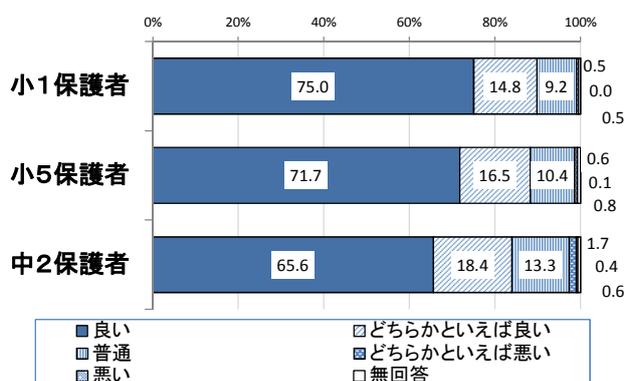
- 国民生活基礎調査の貧困線(平成24年122万円以下)による、子どもの貧困率
子どもの貧困率 5.9%
- 愛知県独自の貧困線 137.5万円による、子どもの貧困率
子どもの貧困率 9.0%

3

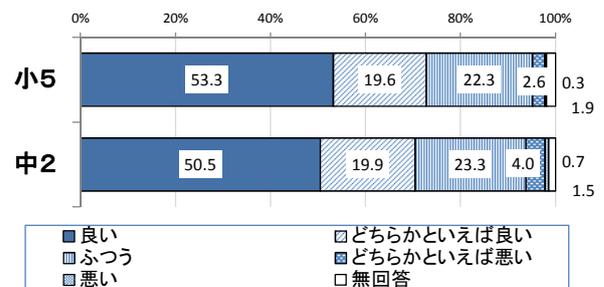
■ 子どもの健康・基本的な生活状況

- ◆ 子どもの健康状態が良い(良い+どちらかといえば良い)と思っている保護者は、小1は約90%、小5は約88%、中2は約84%
- ◆ 子ども本人は良い(良い+どちらかといえば良い)と思っているのは、小5は約73%、中2は約70%
- ◆ 国民生活基礎調査に比べて、良い(良い+どちらかといえば良い)割合が高い

保護者：保護者からみた、子どもの健康状態(SA)



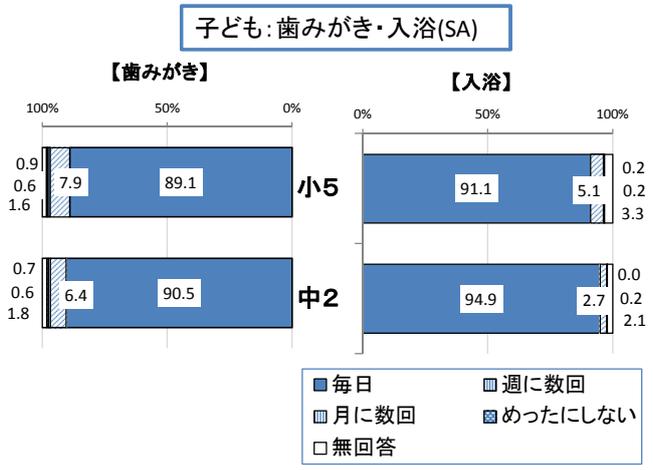
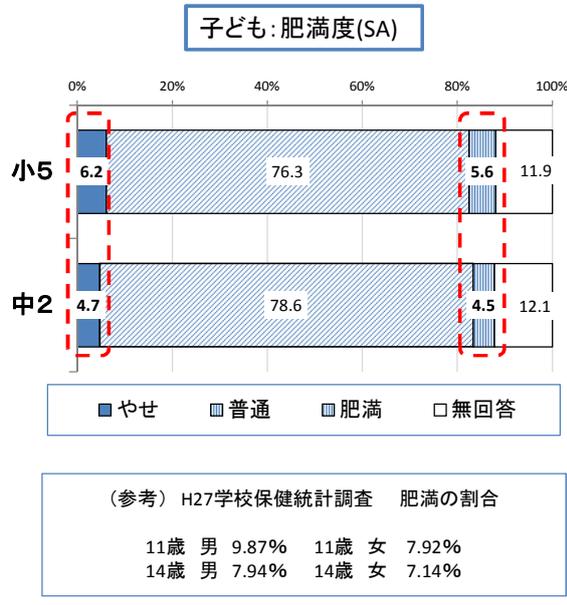
子ども：自身の健康状態(SA)



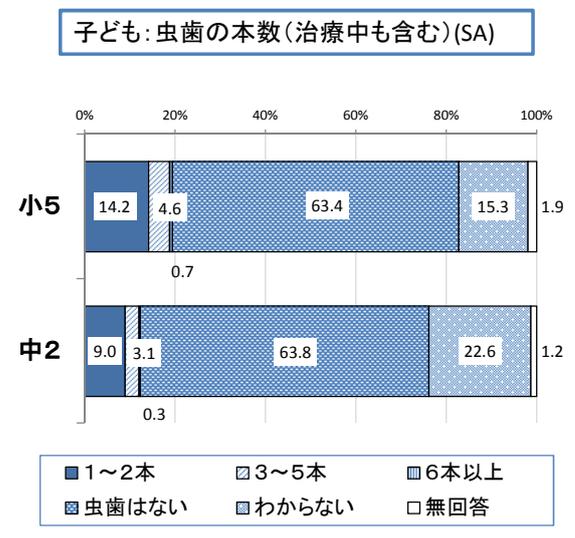
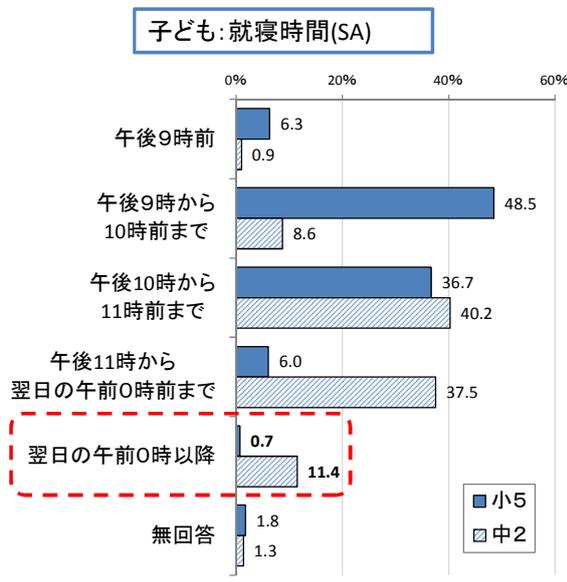
(参考)国民生活基礎調査(H27)



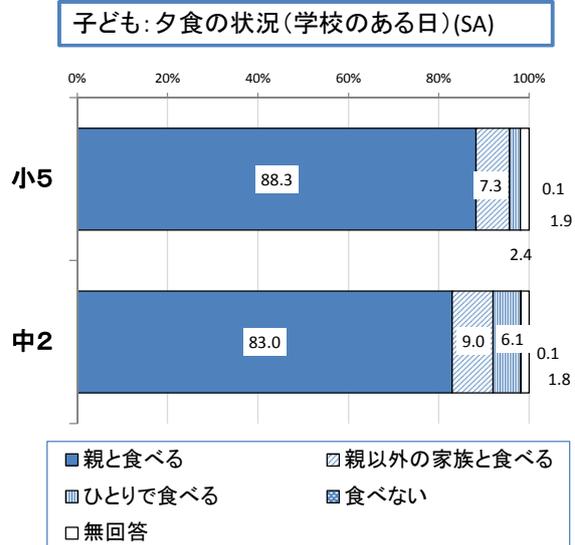
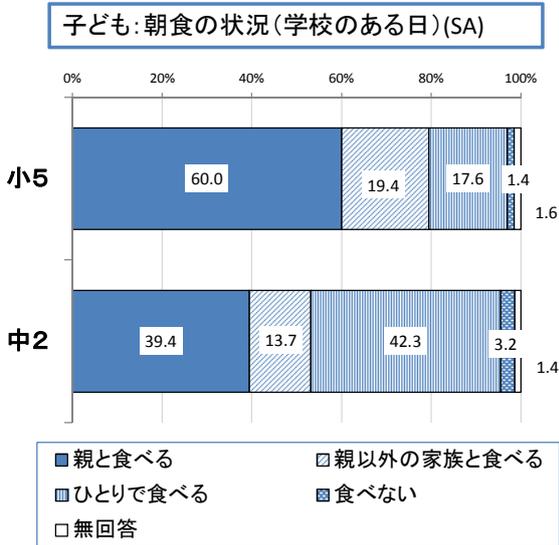
- ◆ 「やせ」は小学生の約6%、中学生の約5%
「肥満」は小学生の約6%、中学生の約5%
- ◆ 歯みがき・入浴は大半が毎日
- ◆ 月に数回やめつたにしない人は歯みがきが1.3~1.5%、入浴が0.2~0.4%



- ◆ 小学生の半数は午後10時前までに就寝
中学生の約11%が午前0時以降に就寝
- ◆ 虫歯がない人は、小学生が約63%、中学生が約64%
わからない人も小学生が約15%、中学生が約23%いる

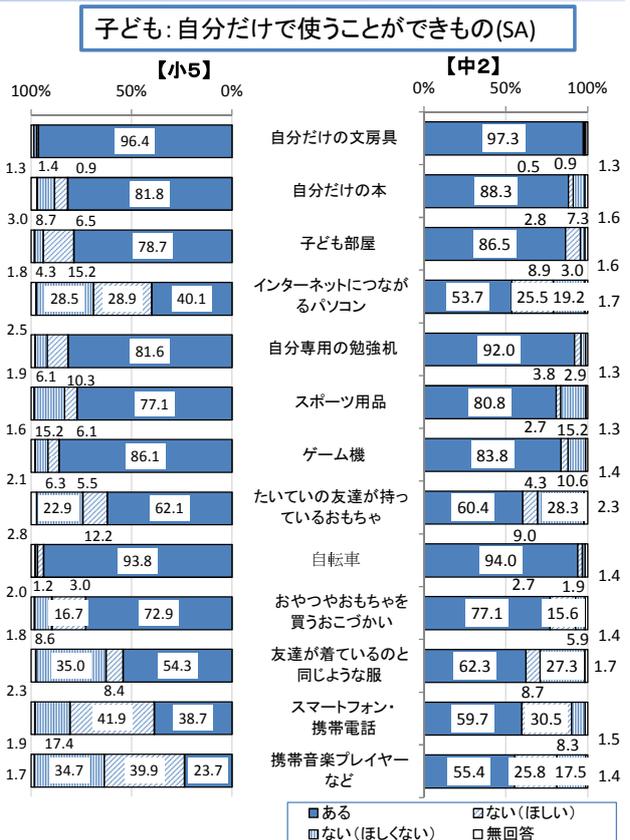


- ◆ 朝食を食べない人は、小学生が約1%、中学生が約3%
ひとりで食べる人は、小学生が約18%、中学生が約42%
- ◆ 夕食をひとりで食べる人は、小学生が約2%、中学生が約6%



7

- ◆ 自分だけで使うことができるもの
文房具、自転車、勉強机、本、ゲーム機は80~90%と高い
- ◆ 一方、インターネットにつながるパソコン、スマートフォン・携帯電話、携帯音楽プレイヤーなどは自分だけで使うことができる割合が低く、現在ないがほしい割合が高い

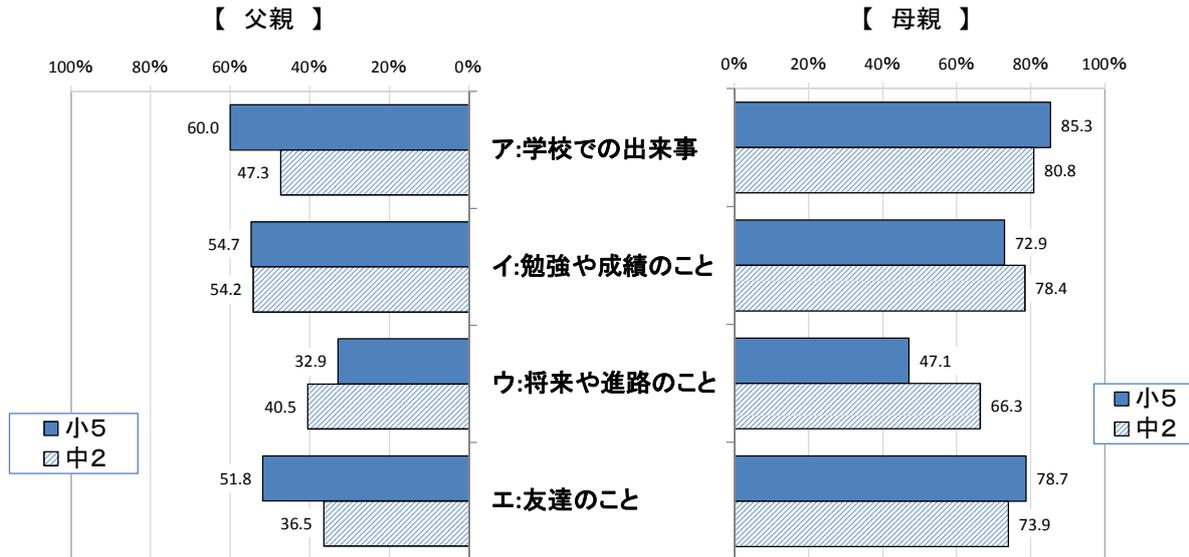


8

■ 家庭での生活(子どもの親との関わり)

- ◆ 小学生、中学生ともに、母親と話をする割合が高い
中学生では、父親と母親の差がさらに広がっている
- ◆ 「将来や進路のこと」は、「学校での出来事」や「勉強や成績のこと」、「友達のこと」を話すより割合が低い

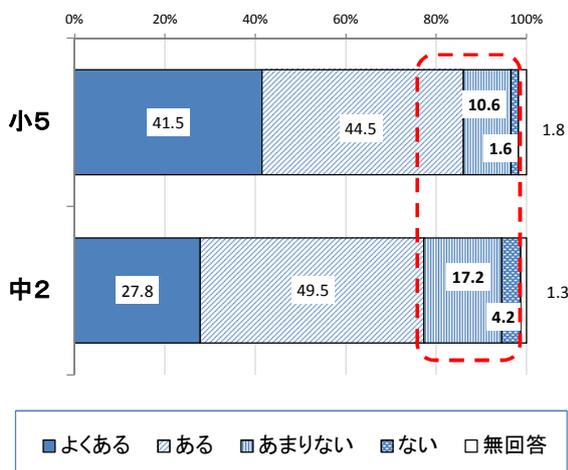
子ども:父親・母親との会話の頻度(「よく話をする」+「ときどき話をする」割合)(SA)



9

- ◆ 親から褒められることがある(よくある+ある)のは、小学生が約86%、中学生が約77%
- ◆ ない(あまりない+ない)のは、小学生が約12%、中学生が約21%

子ども:親から褒められることの有無(SA)

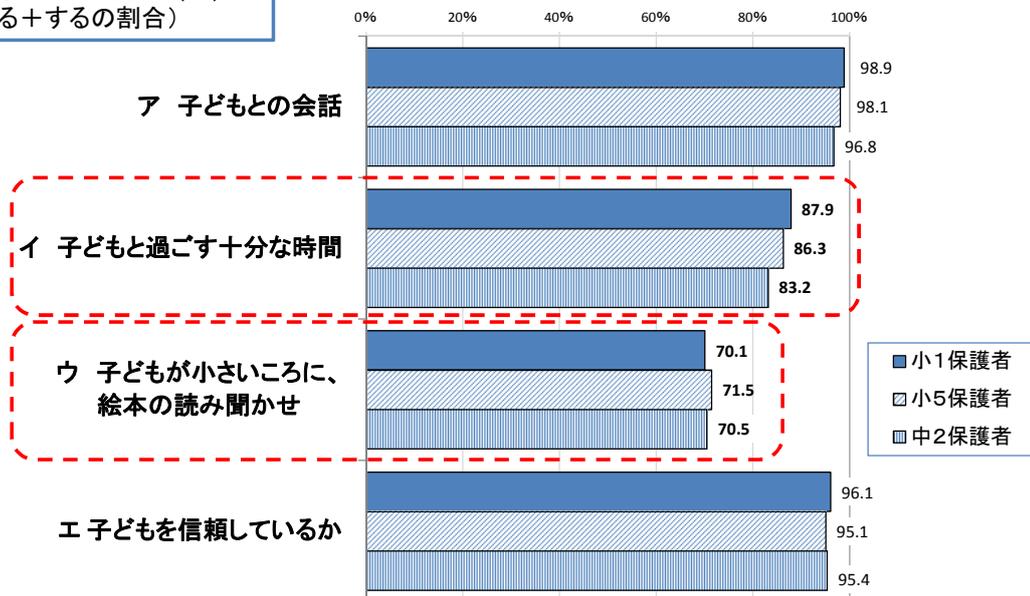


10

■ 保護者の子どもとの関わり

- ◆ 保護者は大半が「子どもと会話をしている」と回答
- ◆ 「子どもと過ごす時間」が十分と回答しているのは、約83～88%
- ◆ 絵本の読み聞かせは約70～71%にとどまる

保護者：子どもとの関わり(SA)
(よくする+するの割合)

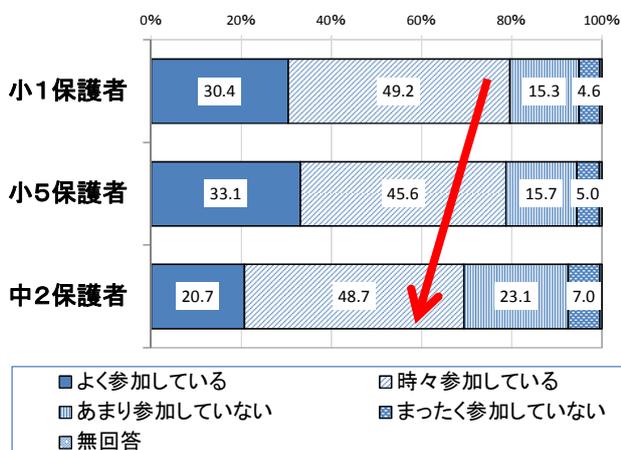


11

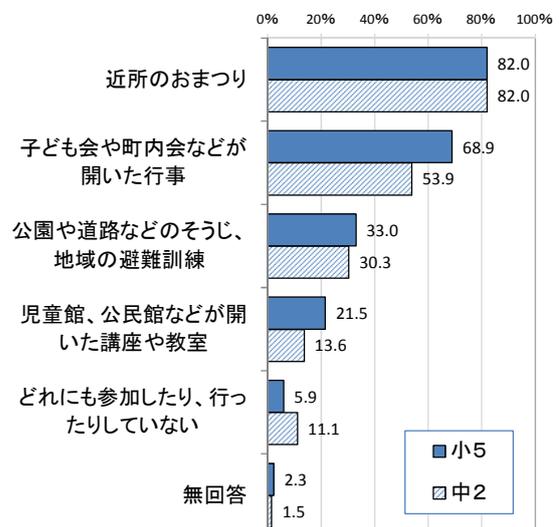
■ 地域との関わり

- ◆ 地域の行事への参加状況は、参加している(よく参加している+時々参加している)のは、小1は約80%、小5は約79%、中2は約79%、参加していない(あまり参加していない+まったく参加していない)のは、小1は約20%、小5は約21%、中2は約30%
- ◆ 小学生、中学生ともに「近所のおまつり」への参加割合が高い

地域の行事への参加状況(MA)



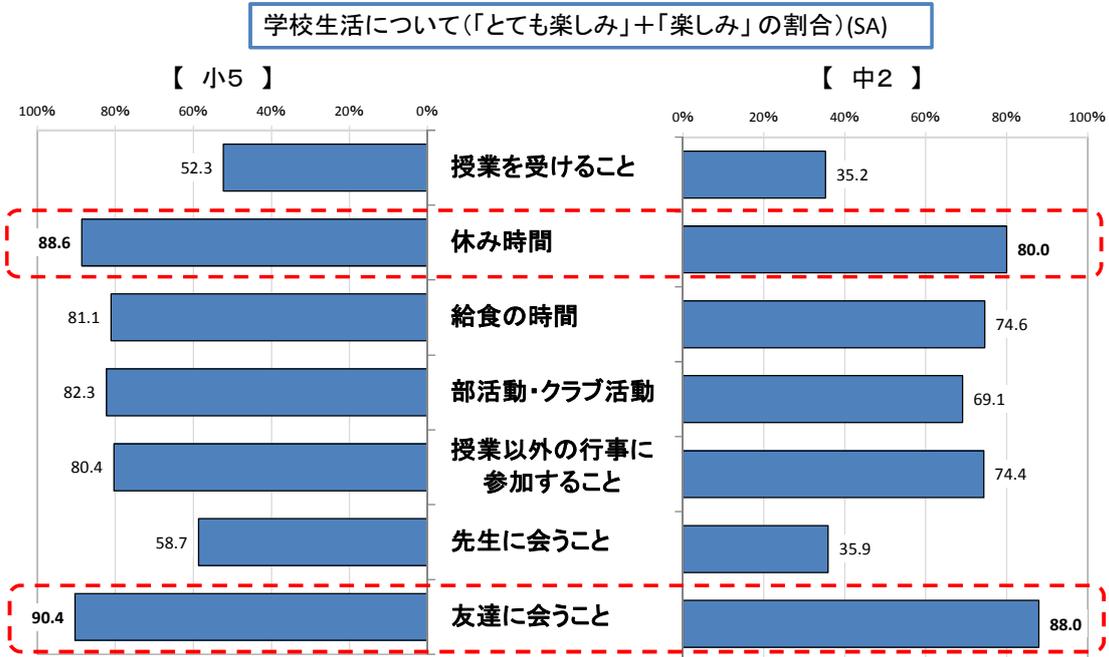
子ども：地域で参加している活動(MA)



12

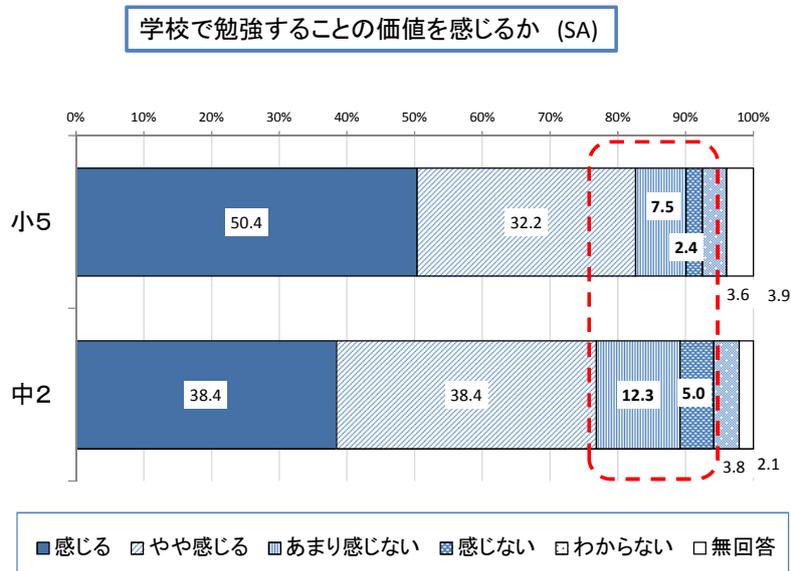
■ 学校生活や勉強

- ◆ 学校生活が楽しみとする人は多く、特に友達と会うことや休み時間をあげる人が多い
- ◆ 授業については、楽しみとする人は小学生で約52%、中学生で約35%



13

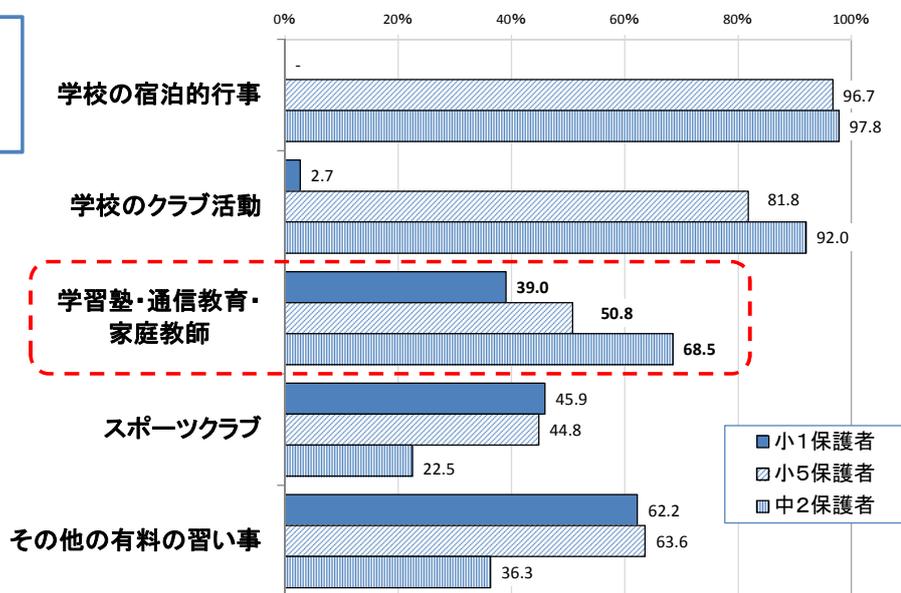
- ◆ 学校で勉強することの価値を感じる人(感じる+やや感じる)は、小学生で約83%、中学生で約77%
- ◆ 一方で、感じない人(あまり感じない+感じない)は、小学生で約10%、中学生で約17%



14

- ◆ 学校のクラブ活動に参加している中学生は92%
- ◆ 有料の習い事をしている小学生は約62~64%
- ◆ 学習塾・通信教育・家庭教師を利用している中学生は約69%、小5でも半数を超える

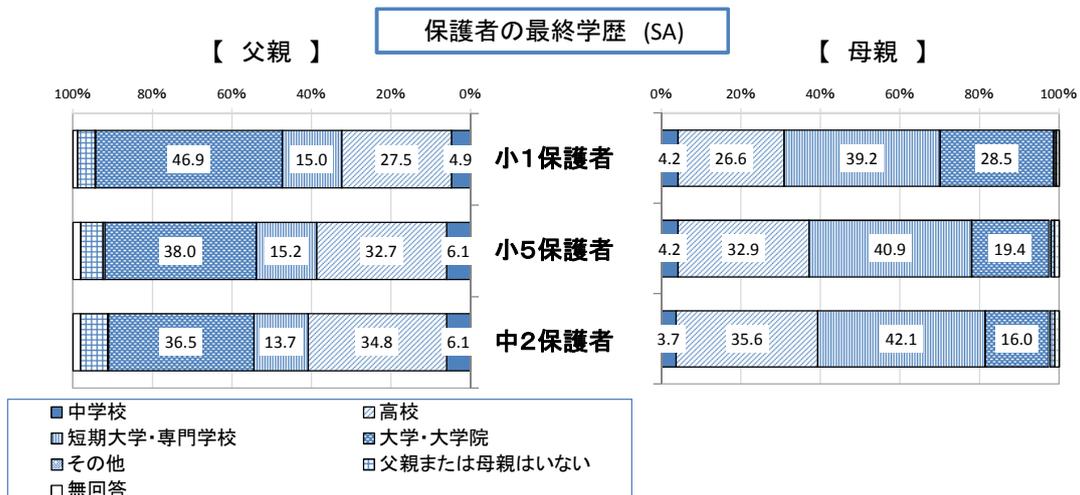
保護者：
学校の行事やクラブ活動
(部活動)、有料の習い事
等をしているか (SA)



15

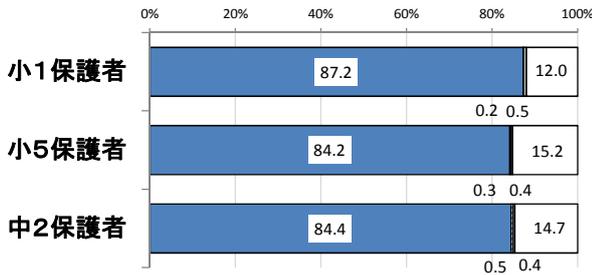
■ 保護者の学歴、子どもに期待する教育・学歴

- ◆ 親の学歴：父親は大卒が約37~47%、高卒が約28~35%
母親は短大・専門学校が約39~42%、小1では大卒が高卒を上回る
- ◆ 子どもに期待する学歴：高校までが約84~87%、短大・専門学校までが約56~68%、大学までが約65~74%、学年が上がるにつれ、短大・専門学校、大学への希望が低くなる
- ◆ 子ども自身：大学までが小5は約40%、中2は約48%



16

保護者：高校までの教育 (SA)



■ 受けさせたい
 □ 経済的には可能だが必要だと思わない
 ▨ 経済的に受けさせることは難しい
 □ 無回答

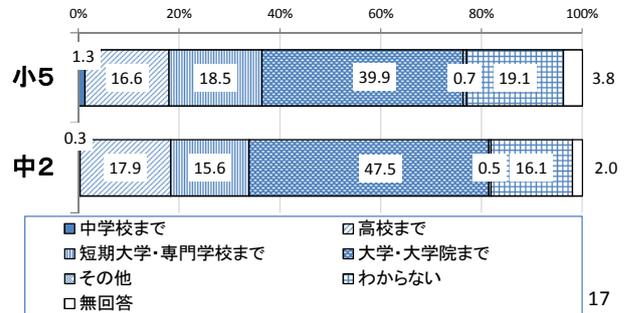
保護者：大学までの教育 (SA)



保護者：短大・専門学校までの教育 (SA)



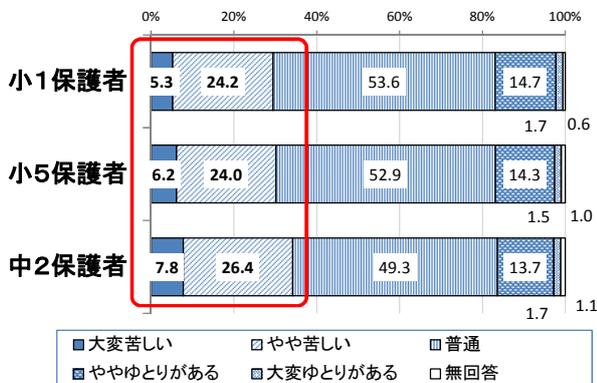
子ども：希望する進路 (SA)



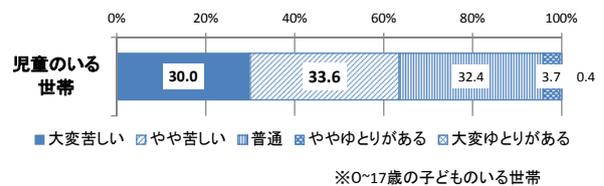
■ 現在の暮らし向き・生活状況、保護者の就労状況

- ◆ 現在の暮らし向きで、苦しい(大変苦しい+やや苦しい)と回答した割合は、小1、小5が約30%、中2が約34% 国民生活基礎調査に比べると、かなり低い
- ◆ 父母の15歳の時の暮らし向きは、苦しい(大変苦しい+やや苦しい)が約12~21%

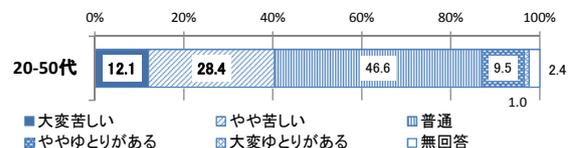
保護者：現在の暮らし向き (SA)



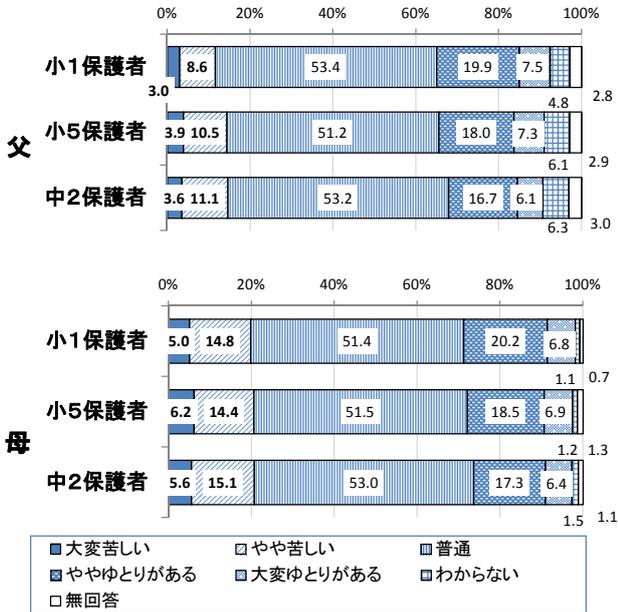
(参考)国民生活基礎調査(H27)



(参考)「生活と支え合いに関する調査」(旧:社会保障実態調査)(2012)

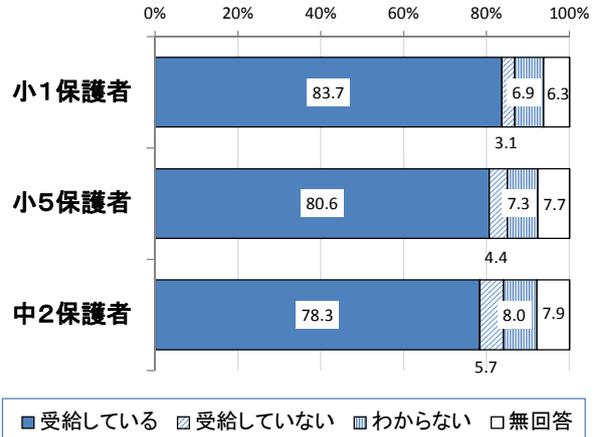


保護者：父母の15歳の時の暮らし向き (SA)



◆ 児童手当を受給しているのは約78～84%

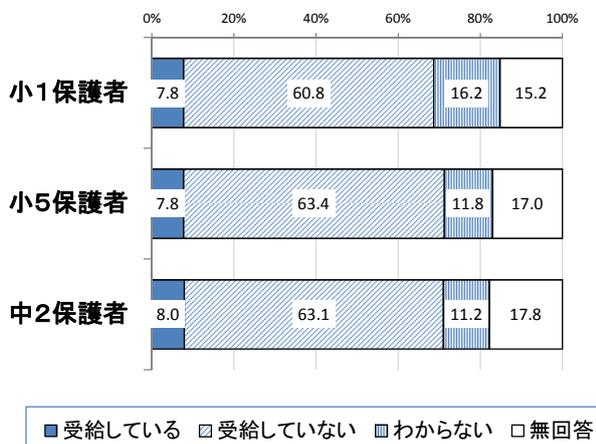
保護者：児童手当の受給状況 (SA)



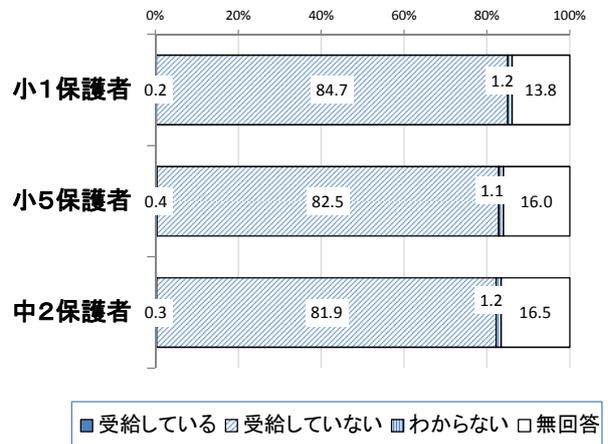
◆ 児童扶養手当・特別児童扶養手当を受給しているのはいずれも約8%

◆ 生活保護を受給しているのは約0.2～0.4%

保護者：児童扶養手当・特別児童扶養手当の受給状況 (SA)

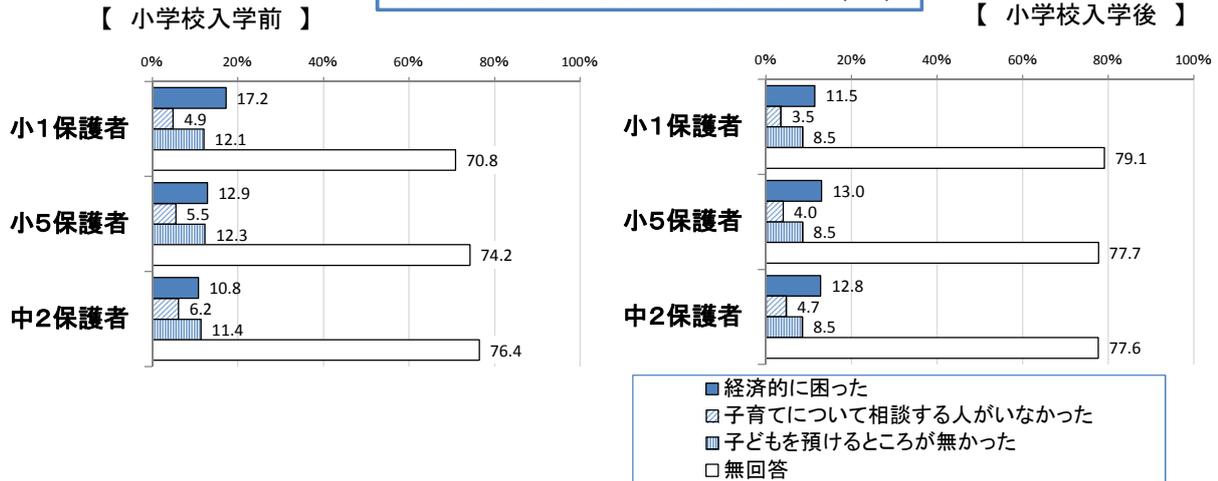


保護者：生活保護の受給状況 (SA)



- ◆ 経済的に困ったとする人は、
小学校入学前で約11～17%、小学校入学後は約11～13%
- ◆ 子育ての相談相手がいなかったとする人は、
小学校入学前で約5～6%、小学校入学後は約4～5%
- ◆ 子どもを預ける場所が無かったとする人は、
小学校入学前で約11～12%、小学校入学後は約9%

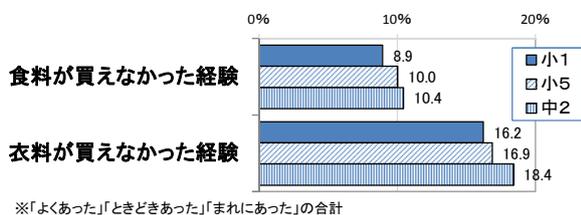
保護者：子どもが生まれてから困ったこと (MA)



21

- ◆ この1年間に食料や衣料が買えなかった経験があるのは、食料で約9～10%
衣料は約16～18%
- ◆ 公共料金等の未払い経験があるのは、それぞれ、約2～6% 学年が上がるにつれ、割合が高い

保護者：食料・衣料が買えなかった経験の有無(SA)



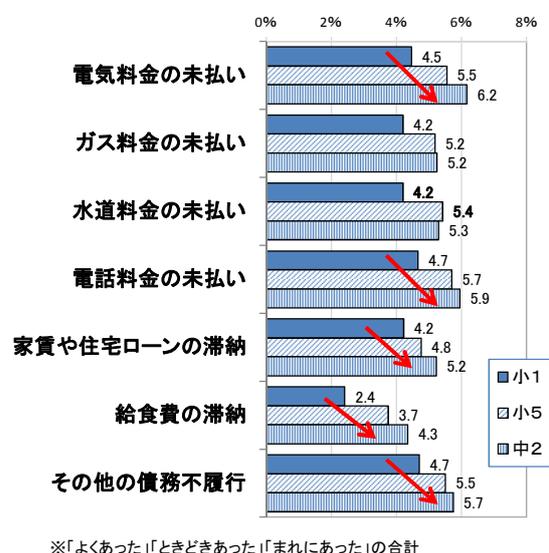
(参考)「生活と支え合いに関する調査」(旧：社会保障実態調査)(2012)

子どものいる世帯で「あった」とする割合

(単位: %)		(単位: %)	
食料が買えなかった経験	16.0	電気料金の未払い	5.0
衣料が買えなかった経験	22.1	ガス料金の未払い	4.3
		電話料金の未払い	4.7
		家賃の滞納	1.9
		住宅ローンの滞納	2.0
		その他の債務不履行	5.4

※食料、衣料は「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計

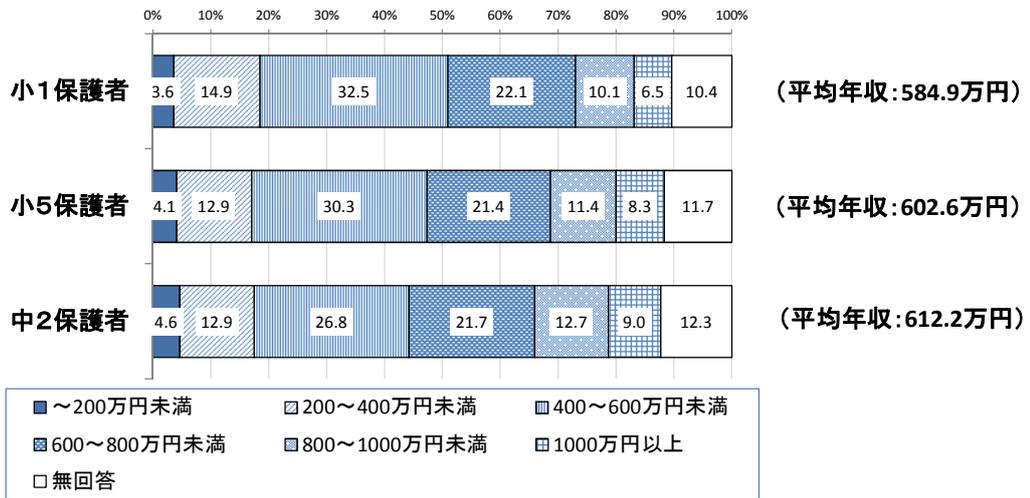
保護者：公共料金等の未払い経験の有無(SA)



22

- ◆ 世帯収入が200万円未満の割合は、小1、小5、中2とも約4～5%
- ◆ 小1、小5、中2とも400～600万円未満の世帯の割合が最も高い
- ◆ 学年が上がるにつれ、世帯年収が高い割合が多くなる

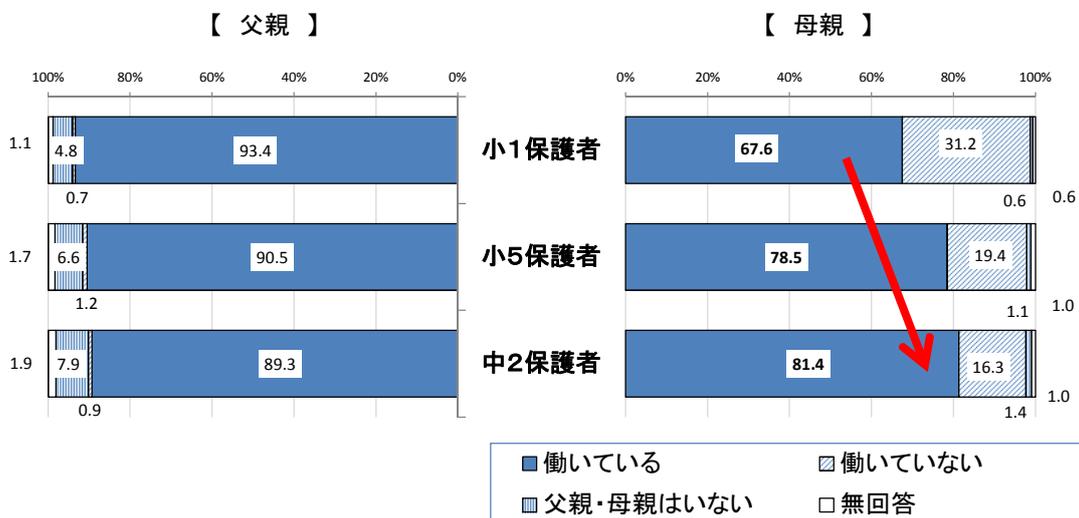
保護者：世帯年収(世帯全体の年間、ボーナス含む手取り額) (SA)



23

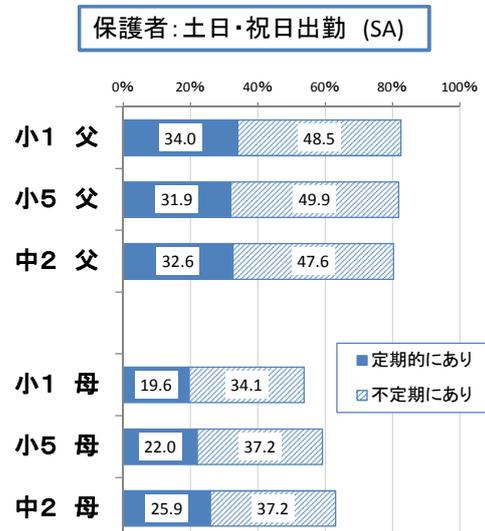
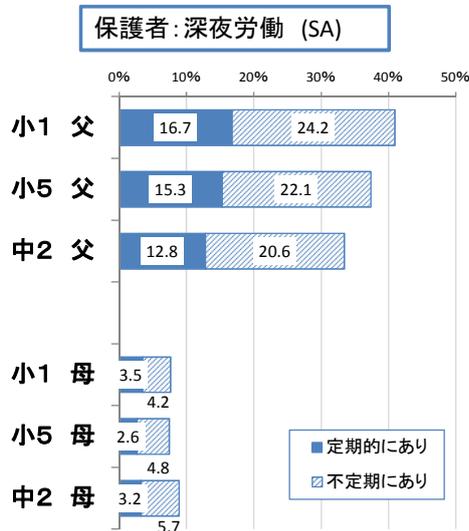
- ◆ 父親が就労は、約90～93%
- ◆ 母親が就労は約68～81%、子どもの年齢が高いほど就労している割合が高い

保護者：現在の就労状況(育児休業等は「働いている」とみなす) (SA)



24

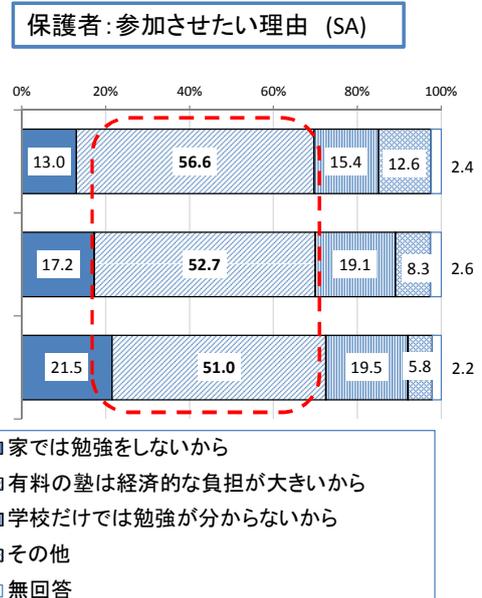
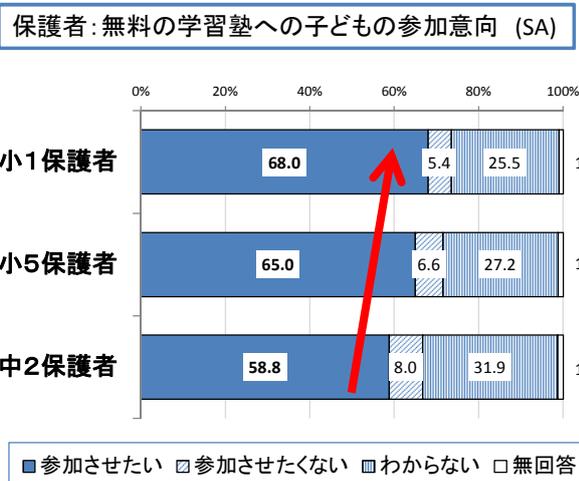
- ◆ 深夜労働(22時以降)があるのは、父親が約33~41%、母親が約8~9%
父親の約13~17%は定期的にある
- ◆ 土日・祝日出勤があるのは、父親が約80~83%、母親が約54~63%
父親の約32~34%、母親の約20~26%は定期的にある



25

■ 福祉事業の参加意向

- ◆ 無料学習塾への参加意向は約59~68%、学年が低い方が参加意向が高い
- ◆ 参加させたい理由としては、「有料の塾は経済的な負担が大きいから」が半数を占める

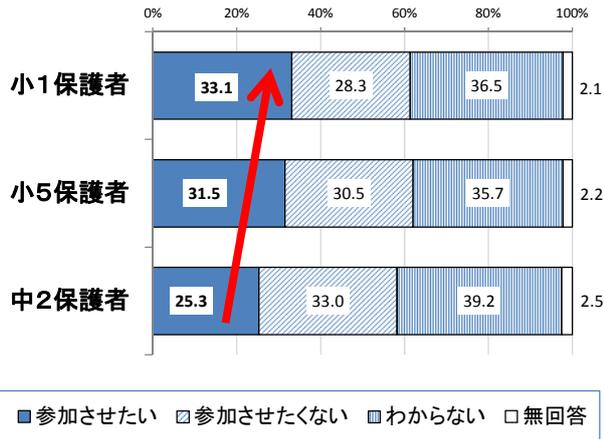


26

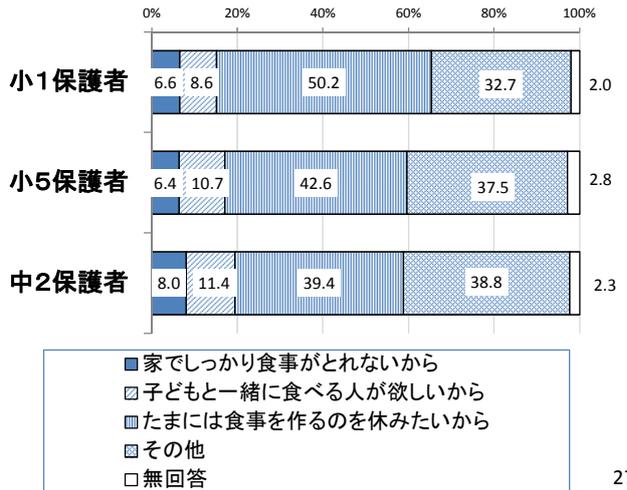
■ 福祉事業の参加意向

- ◆ 「子ども食堂」への参加意向は約25～33%、年齢が低い方が参加意向が高い
- ◆ 参加させたい理由としては、「たまには食事を作るのを休みたいから」が最も高い
- ◆ 「家でしっかり食事がとれないから」は約6～8%、「子どもと一緒に食べる人が欲しいから」は約9～11%

保護者：「子ども食堂」への子どもの参加意向 (SA)



保護者：参加させたい理由 (SA)



平成28年度愛知県ひとり親家庭等実態調査について（概要）

本調査から算出したひとり親家庭の子どもの貧困率

◆算出方法

母子・父子世帯の調査票：家族の人数
世帯の収入（手取り額）

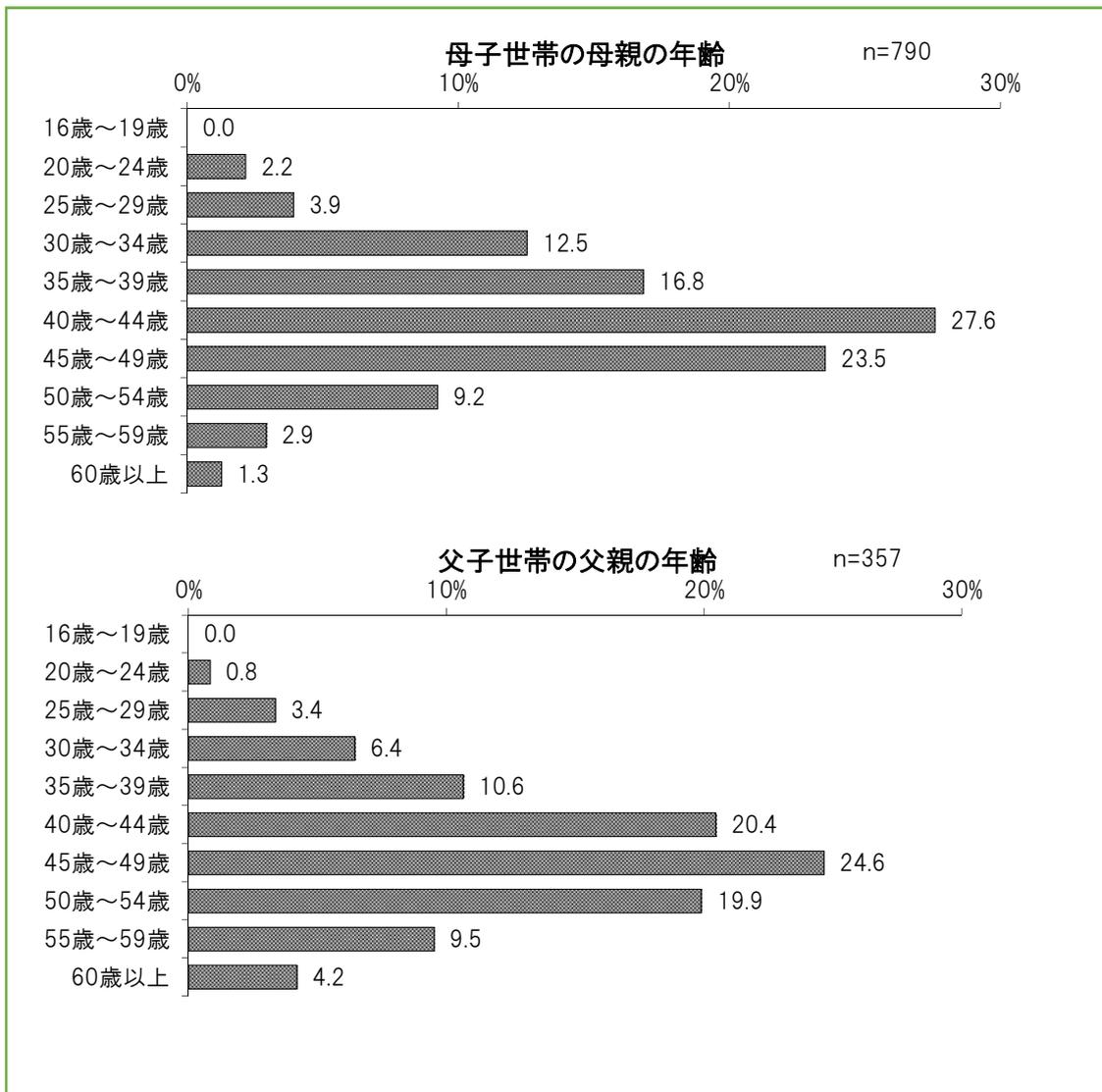


- 1人当たりの収入（手取り額）を算出
- 国民生活基礎調査の貧困線（平成24年122万円以下）をもとに、子どもの貧困率を算出
- 愛知県独自の貧困線を算出し、子どもの貧困率を算出

◆算出結果

- 国民生活基礎調査の貧困線（平成24年122万円以下）による場合
子どもの貧困率 52.9%
- 愛知県独自の貧困線137.5万円による場合
子どもの貧困率 65.5%

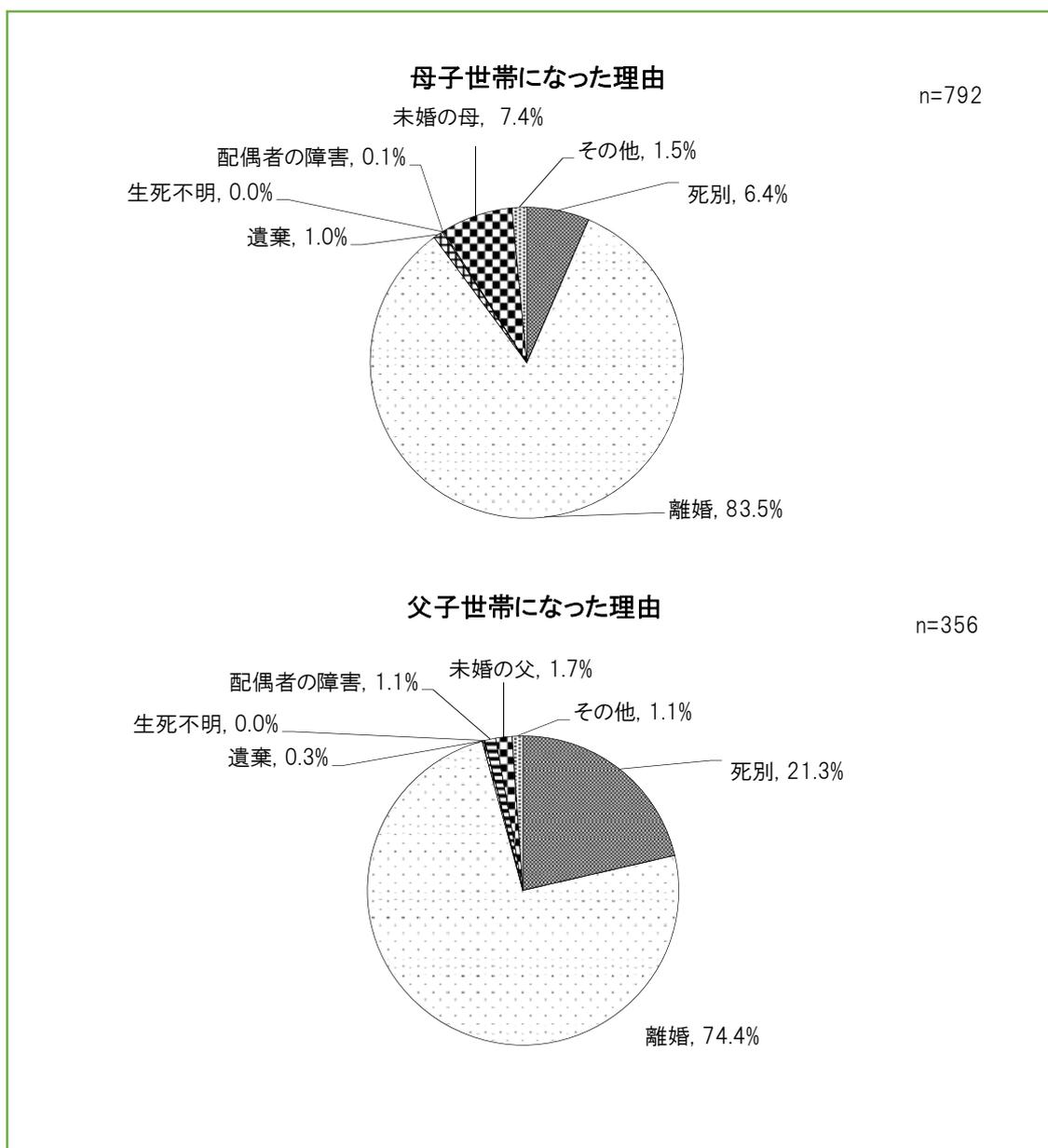
(1) ひとり親世帯の親の年齢



母子世帯の母親の年齢は、「40歳～44歳」の割合が27.6%と最も高く、次いで「45歳～49歳」が23.5%、「35歳～39歳」が16.8%、「30歳～34歳」が12.5%の順となっており、40歳代（51.1%）の占める割合が高くなっている。また、母子世帯の母親の平均年齢は41.6歳となっている。

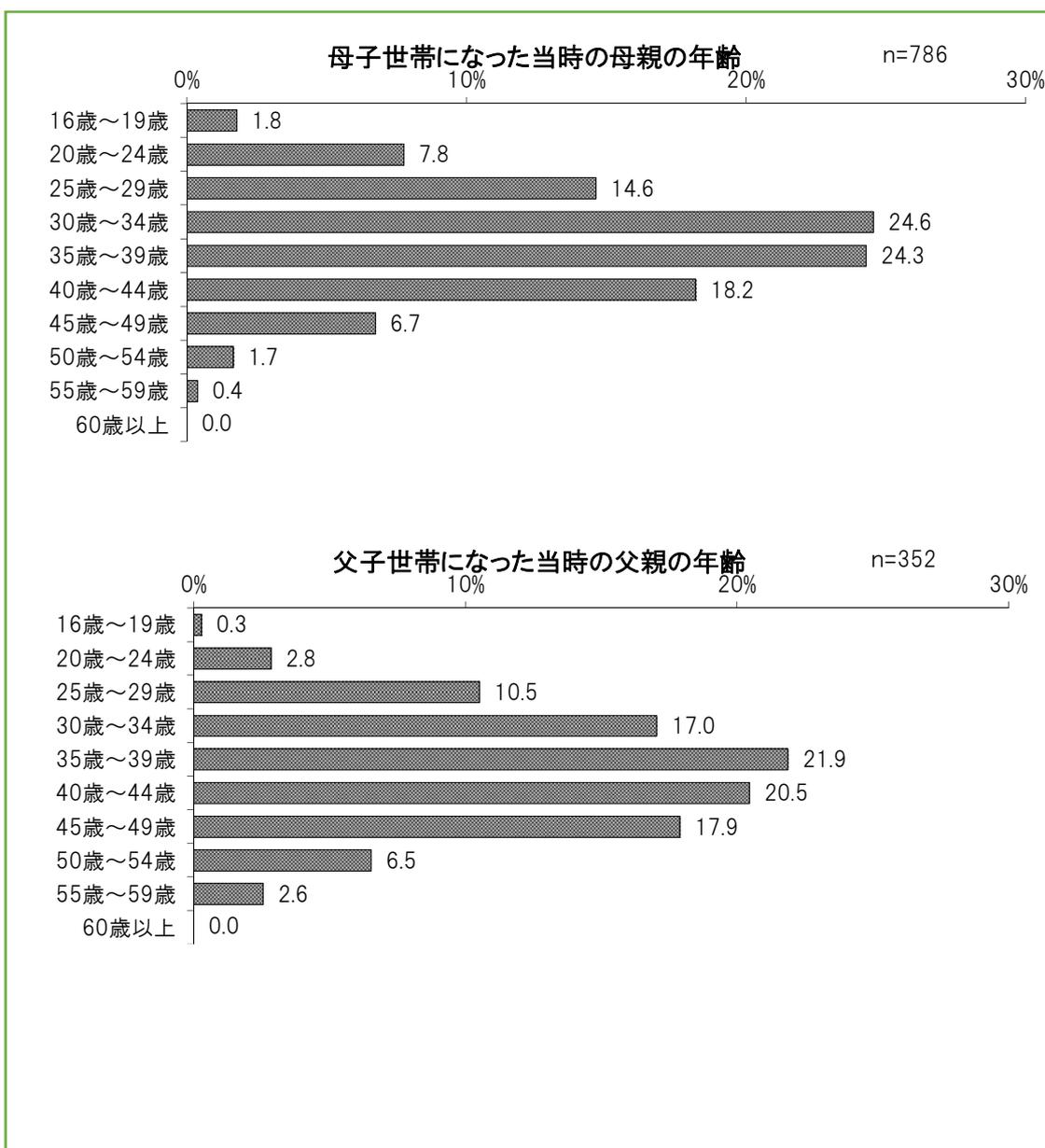
一方、父子世帯の父親の年齢は、「45歳～49歳」の割合が24.6%と最も高く、次いで「40歳～44歳」が20.4%、「50歳～54歳」が19.9%、「35歳～39歳」が10.6%の順となっており、40歳代（45.0%）の占める割合が高くなっている。また、父子世帯の父親の平均年齢は45.6歳となっている。

(2) ひとり親世帯になった理由



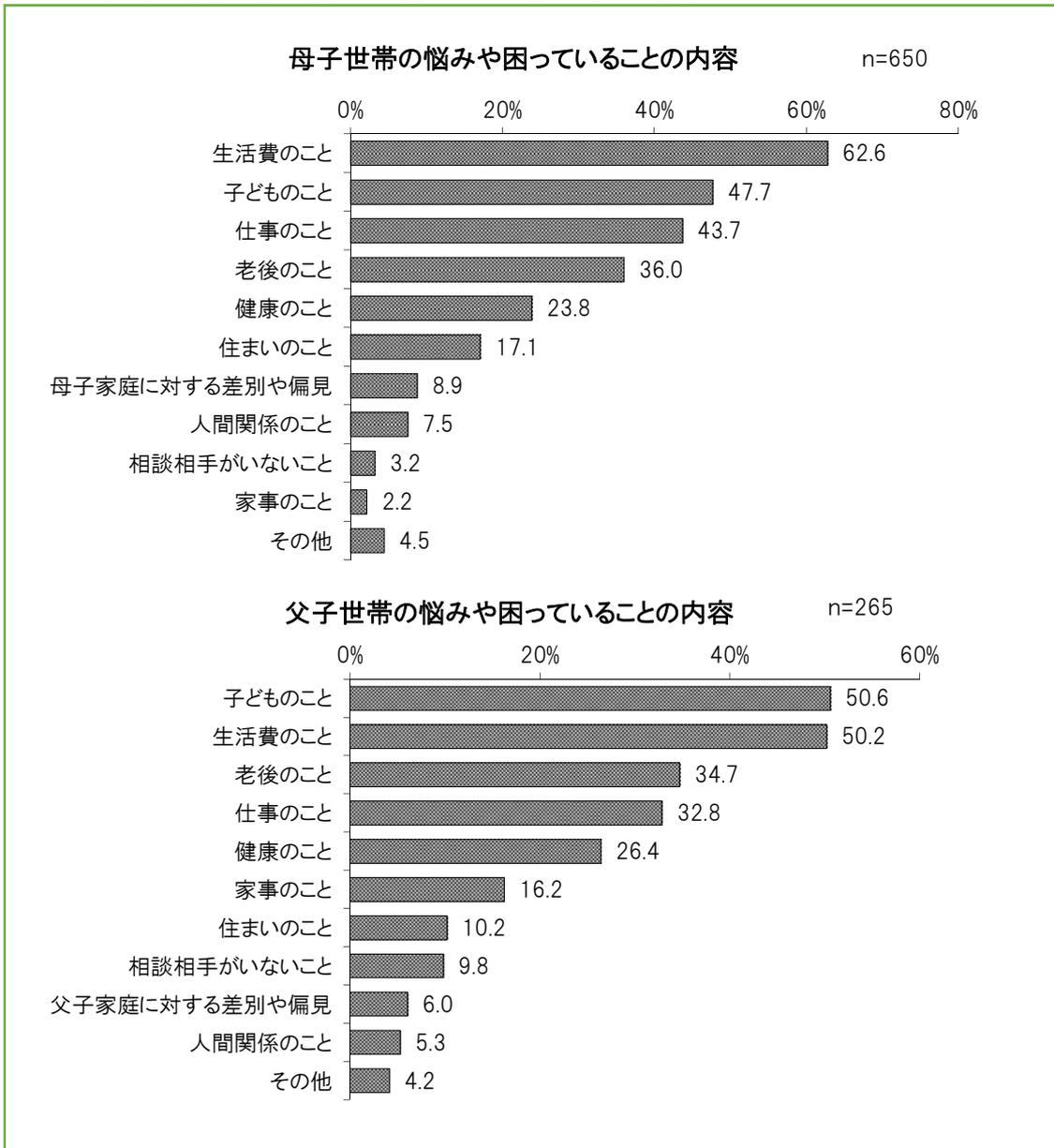
母子世帯になった理由は、離婚が 83.5%、死別が 6.4%、未婚の母が 7.4% となっている。また、父子世帯になった理由は、離婚が 74.4%、死別が 21.3% となっている。母子世帯は父子世帯に比べて離婚の割合が高く、死別の割合が低い。

(3) ひとり親になった当時の親の年齢



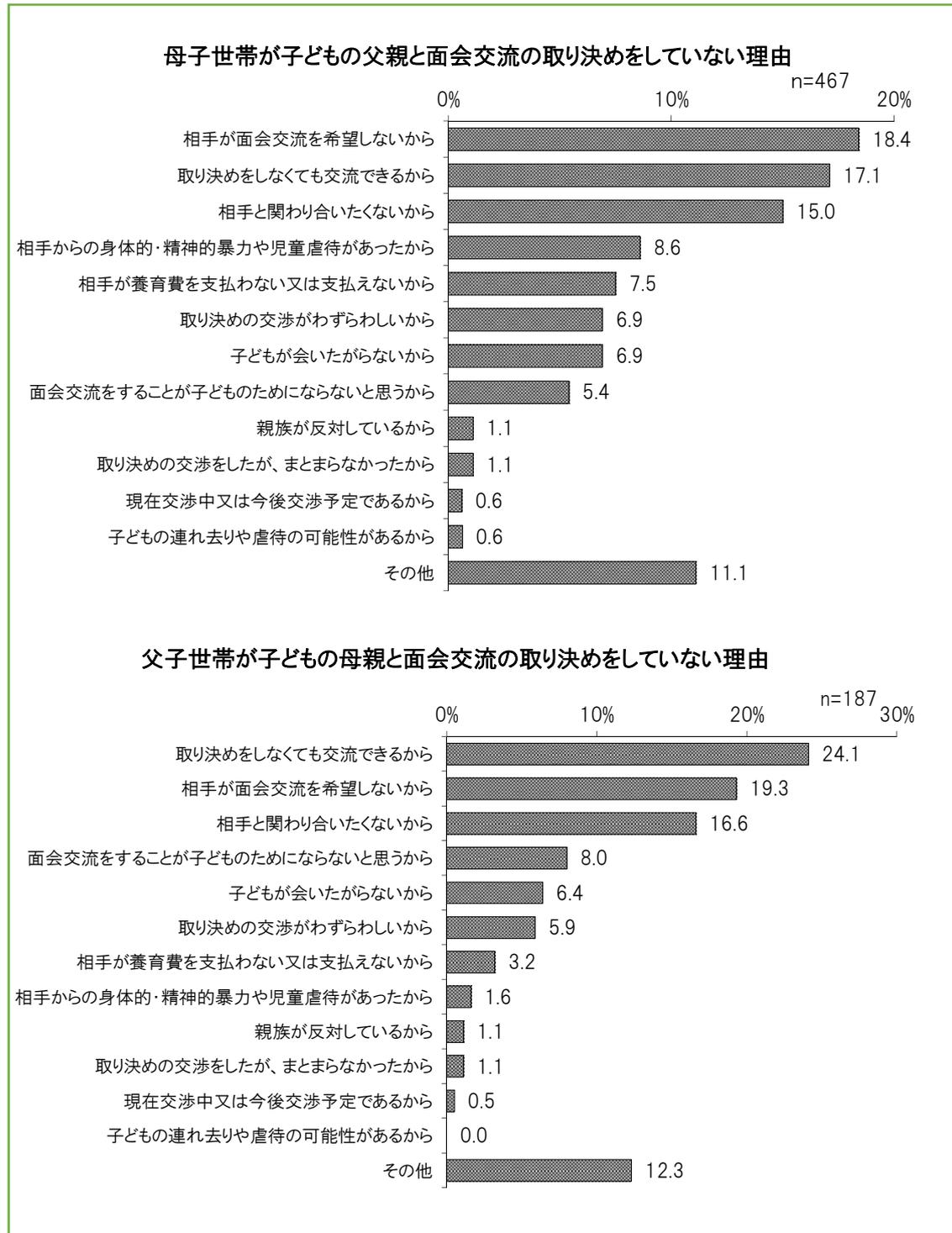
母子世帯の母親は30歳代で母子世帯となるケースが多く（48.9%）なっており、平均年齢は34.7歳となっている。また、父子世帯は、「35歳～39歳」（21.9%）、「40歳～44歳」（20.5%）で父子世帯となるケースが多くなっており、平均年齢は38.8歳となっている。

(4) ひとり親世帯の悩みや困っていることの内容



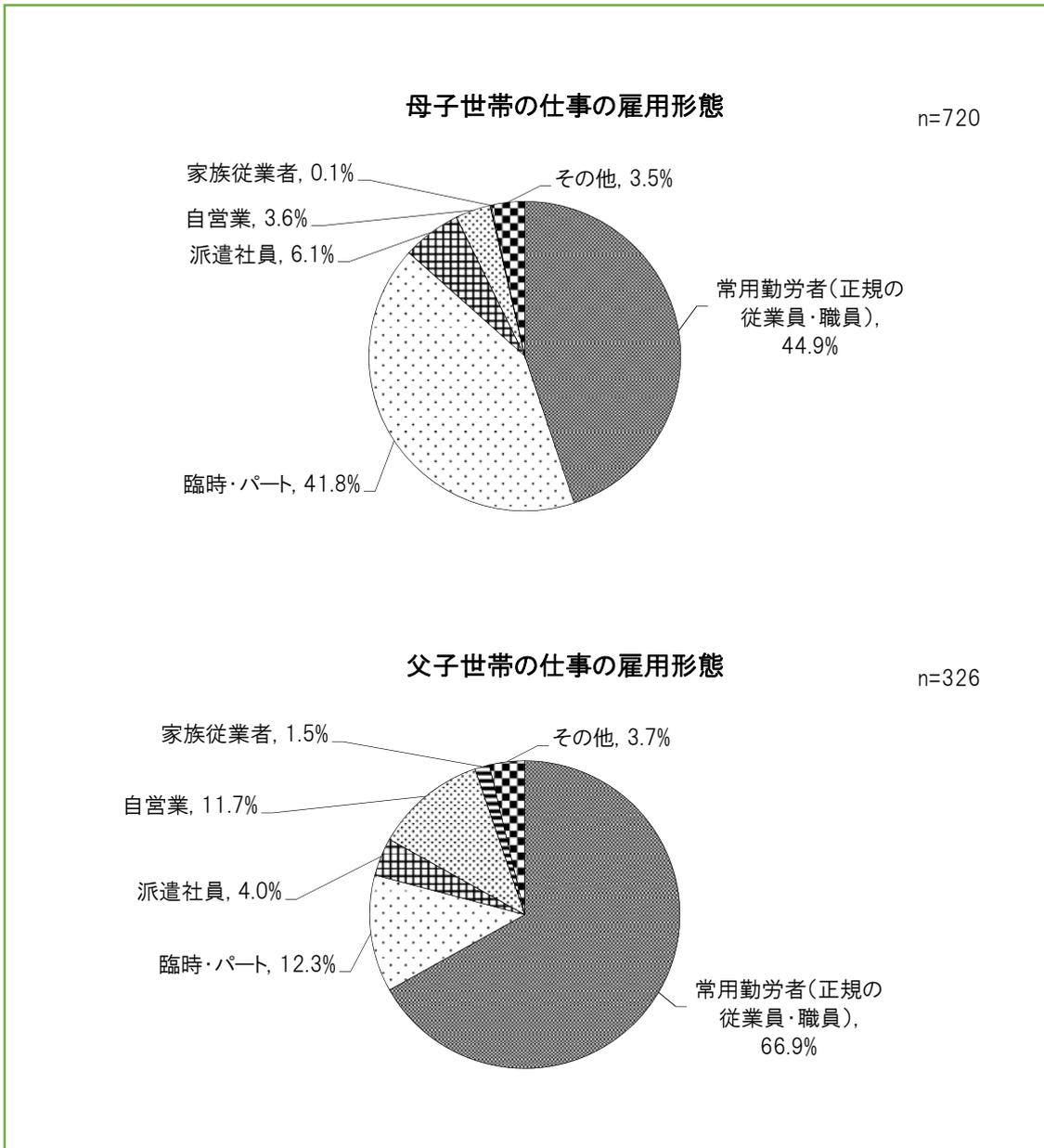
母子世帯の悩みや困っていることの内容をみると、「生活費のこと」が62.6%と最も高く、次いで「子どものこと」が47.7%、「仕事のこと」が43.7%、「老後のこと」が36.0%、「健康のこと」が23.8%の順となっている。一方、父子世帯では「子どものこと」が50.6%と最も高く、次いで「生活費のこと」が50.2%、「老後のこと」が34.7%、「仕事のこと」が32.8%、「健康のこと」が26.4%となっている。

(5) 面会交流の取り決めをしていない理由（新規）



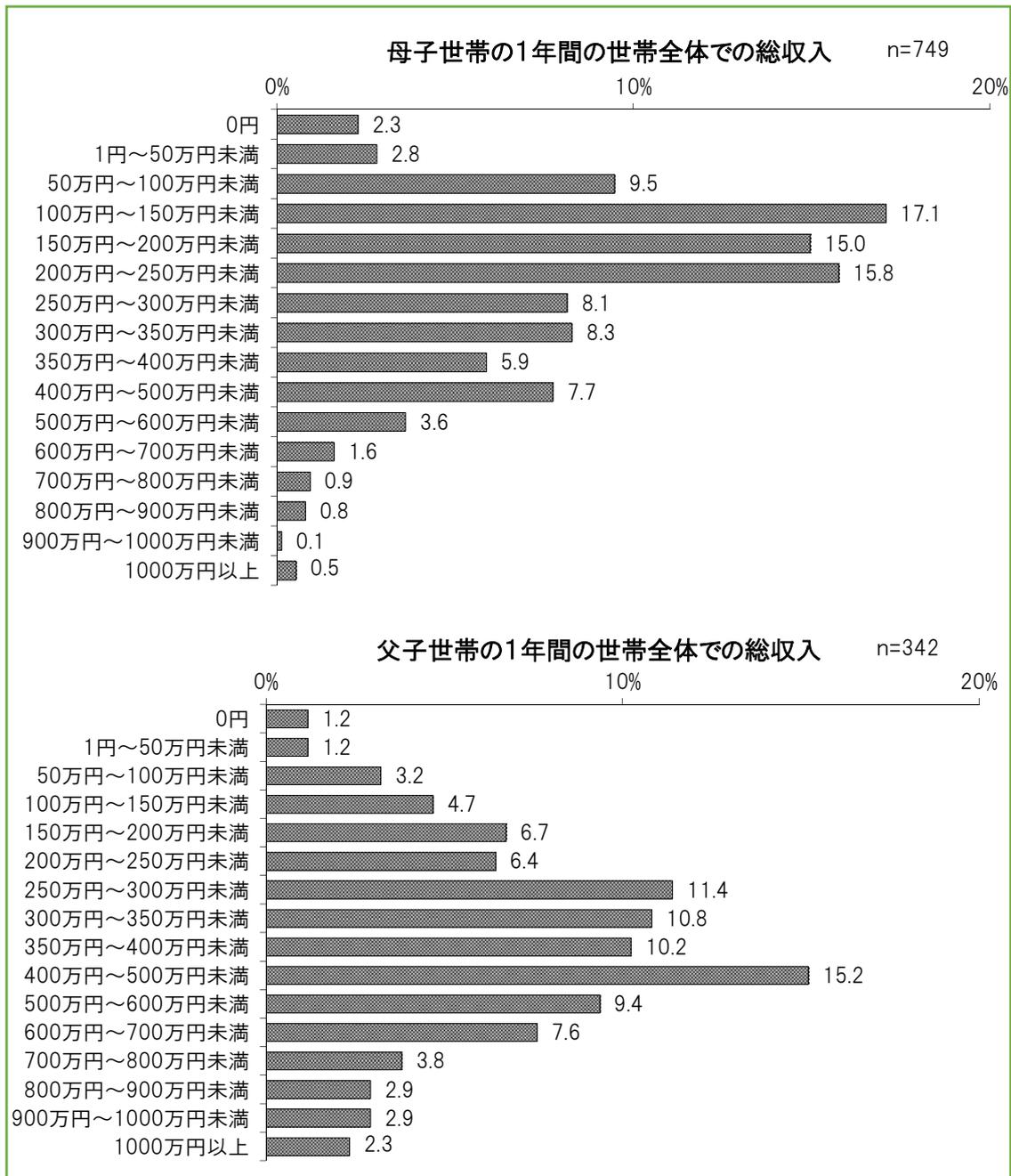
子どもの父親と面会交流の取り決めをしていない母子世帯は 66.1%あり、その理由は、「相手が面会交流を希望しないから」が 18.4%、「取り決めをしなくても交流できるから」が 17.1%となっている。一方、子どもの母親と面会交流の取り決めをしていない父子世帯は 72.2%あり、その理由は、「取り決めをしなくても交流できるから」が 24.1%、「相手が面会交流を希望しないから」が 19.3%となっている。

(6) 就労状況



母子世帯の母親の91.3%が仕事についており、そのうち臨時・パート、派遣社員が47.9%となっている。一方、父子世帯の父親は、91.7%が仕事についており、そのうち66.9%が常用勤労者となっている。

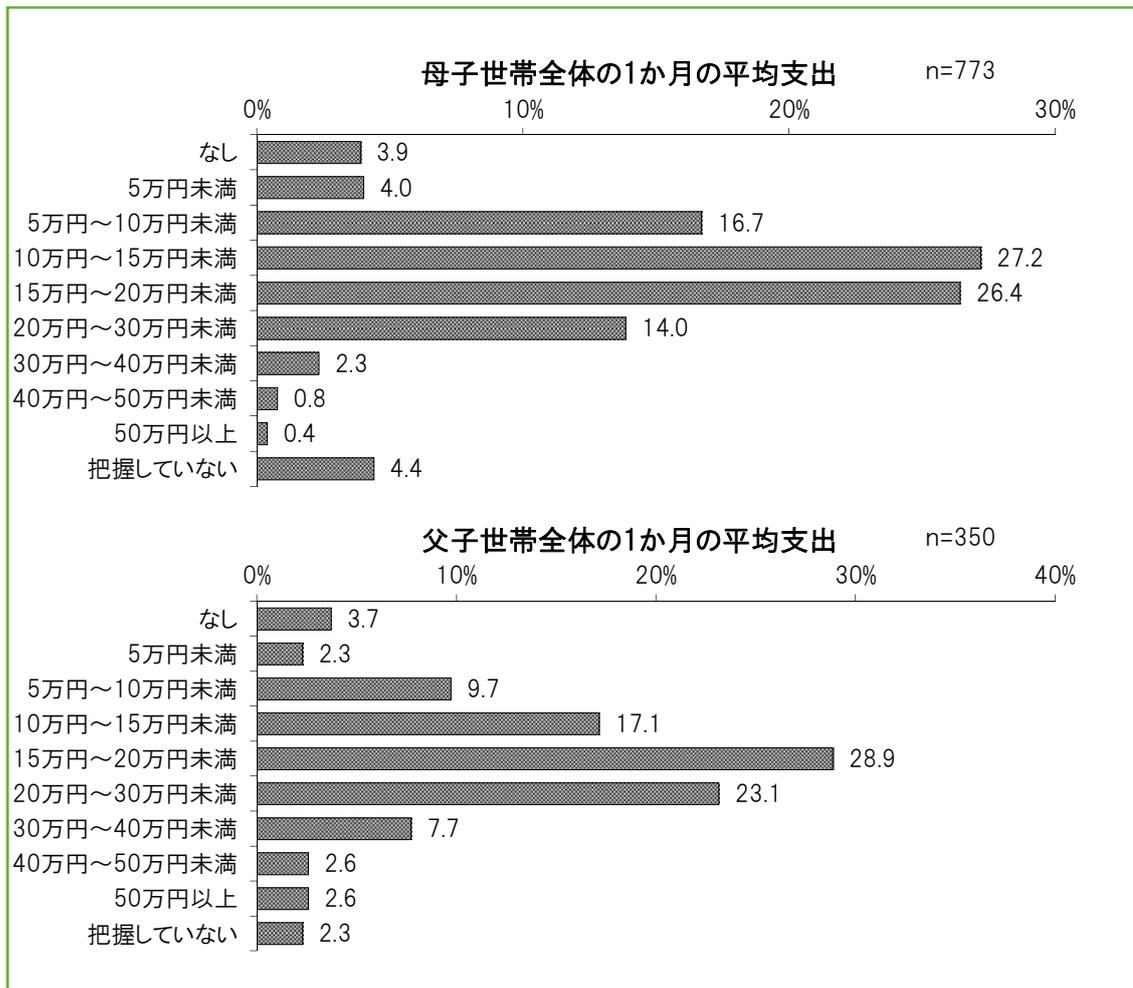
(7) 年収（世帯の総収入）



平成28年のボーナスを含む年間総収入は、母子世帯では「100万円～150万円未満」と回答した人の割合が17.1%と最も高く、次いで「200万円～250万円未満」が15.8%、「150万円～200万円未満」が15.0%の順となっている。一方、父子世帯では「400万円～500万円未満」と回答した人の割合が15.2%と最も高く、次いで「250万円～300万円未満」が11.4%、「300万円～350万円未満」が10.8%の順となっている。

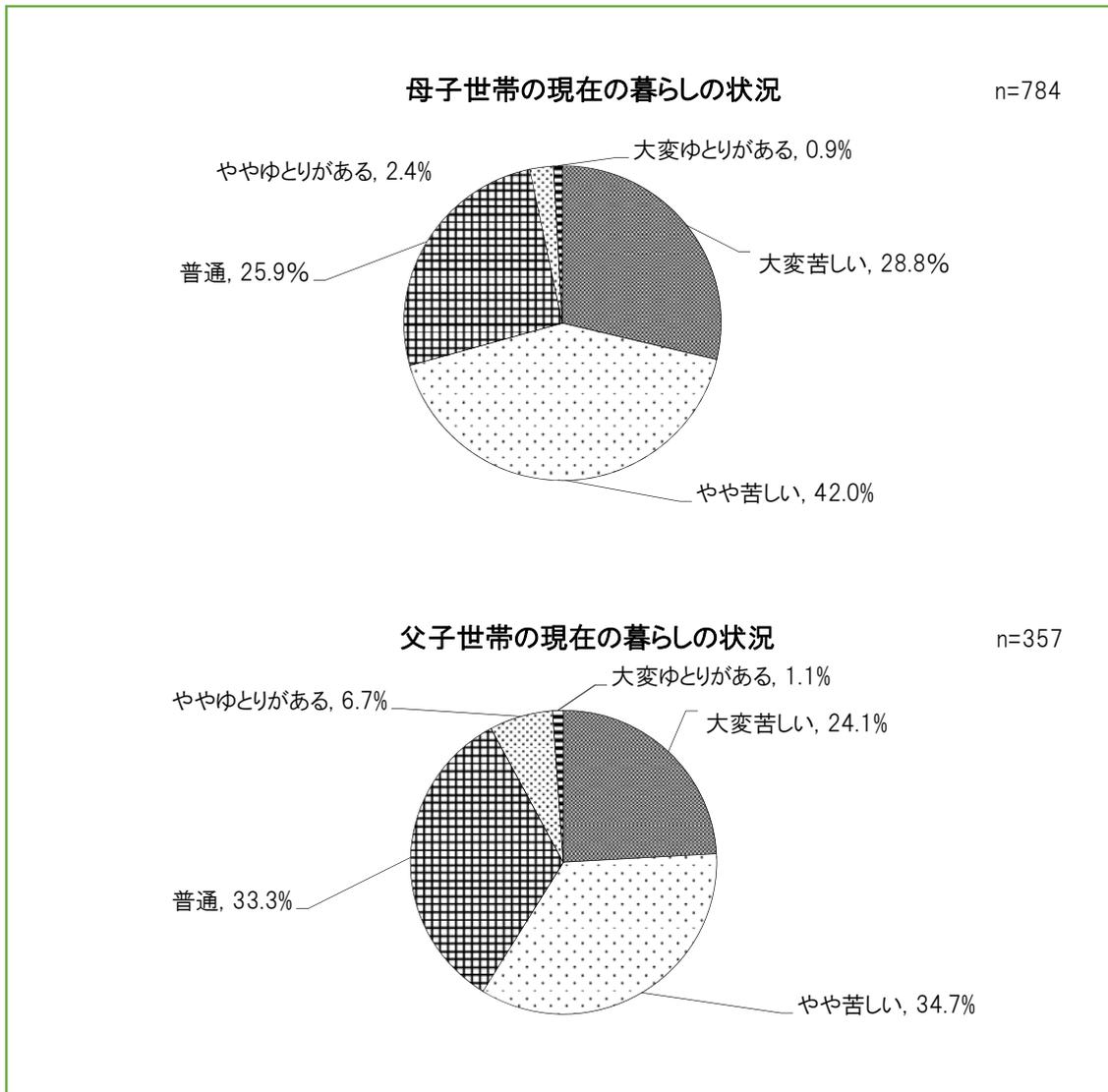
母子世帯の平均年収は、247.6万円となっており、父子世帯の平均年収は、413.5万円となっている。

(8) 家計の状況 (家計の1か月の平均支出) (新規)



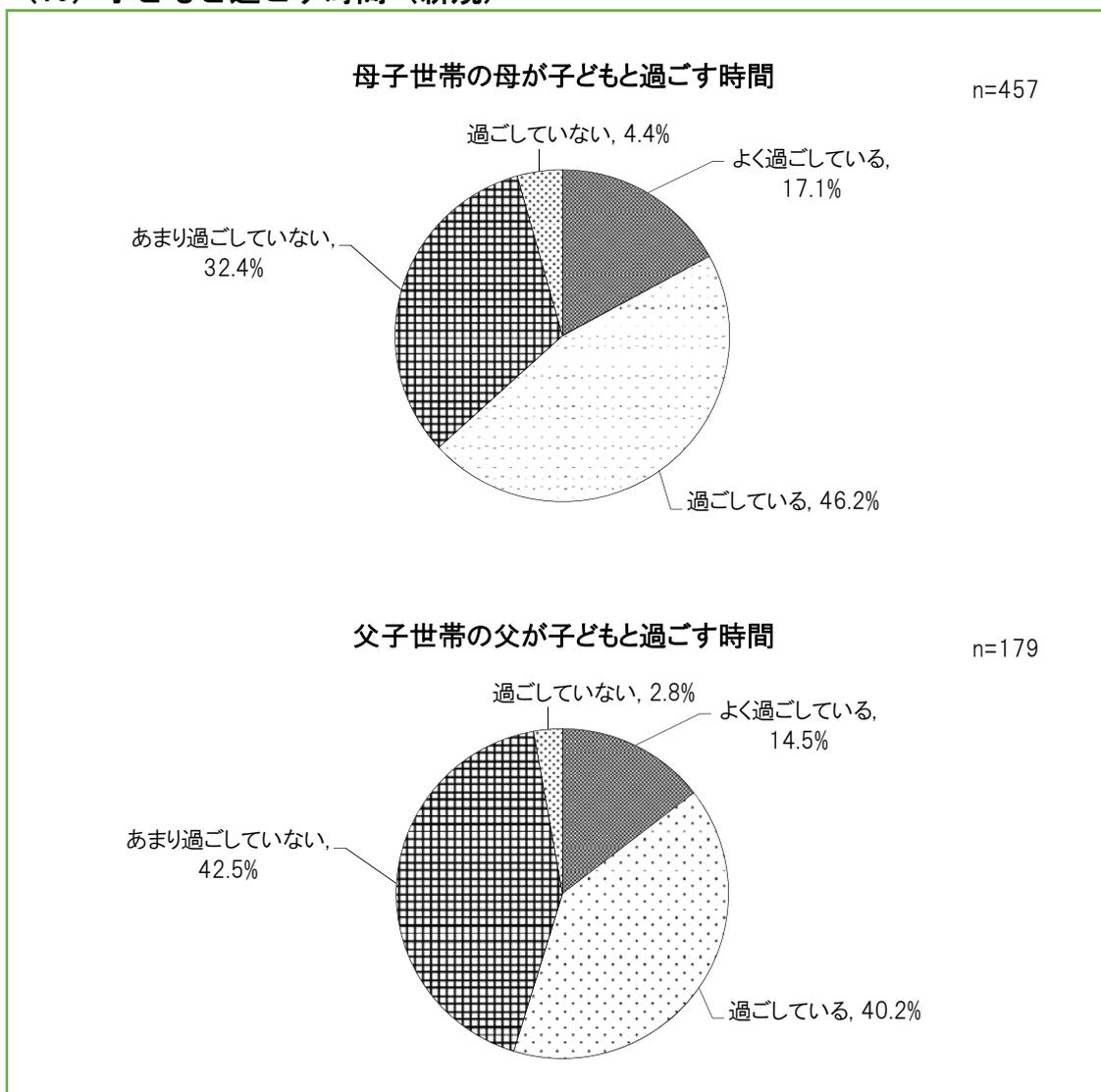
母子世帯の1か月の平均支出は、「10万円以上15万円未満」が27.2%と最も多く、次いで「15万円以上20万円未満」が26.4%となっており、父子世帯では、「15万円以上20万円未満」が28.9%と最も多く、次いで「20万円以上30万円未満」が23.1%となっている。

(9) 家庭の現在の暮らしの状況



家庭の現在の暮らしの状況は、「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせて母子世帯では70.8%、父子世帯では58.8%となっている。

(10) 子どもと過ごす時間（新規）



子どもと過ごす時間は、「よく過ごしている」、「過ごしている」を合わせて母子世帯では **63.3%**、父子世帯では **54.7%** となっており、「あまり過ごしていない」、「過ごしていない」を合わせて母子世帯では **36.8%**、父子世帯では **45.3%** となっている。